

あきたはんかぞうもんじよ
秋田藩家蔵文書

- 1 種 別 有形文化財（古文書）
- 2 名称及び員数 秋田藩家蔵文書 61冊
- 3 所在地 秋田市山王新町14番31号 秋田県公文書館
- 4 所有者 秋田県
- 5 説明

秋田藩家蔵文書は、江戸時代に秋田藩が行った修史事業の過程で収集、書写、編纂された書状を中心とした全3,794点の文書資料集である。これを基に佐竹家歴代当主の公譜記録『佐竹家譜』、藩士系図などの『諸士系図』が編纂された。この経緯は『岡本元朝日記』に詳しく記録されている。

元禄9年（1696）、秋田藩は家中諸士に家蔵の系図や文書類を差し出すよう命じた。翌年に文書所を設置し、御日記取纏役および御文書改奉行に岡本元朝を任命し、御調頭とした。御文書吟味役に中村光得と大和田時胤を当て、その他に5人を所属させ、本格的な修史事業が開始された。文化2年（1805）頃まで繰り返し提出を命じ、収集、吟味、書写された資料は、概ね提出者の家別にまとめられた。

資料各冊の内題は、「佐竹式部義都家人家蔵文書」や「岡本又太郎元朝家蔵文書」のように所蔵諸士家でくくられており、このうち現在まで伝存し、秋田県公文書館に所蔵されているものが61冊である。外題総称として『秋田藩家蔵文書』の名称を付与した時期は特定されていない。写本の種類では全体は臨写である。花押の一部などは原文書を敷き写したもので、書誌的にも貴重である。

中央政権との関係を示すものには、鎌倉および室町幕府将軍らの下文、織田信長らの印判状、伏見城築城に際して豊臣秀吉から割り当てられた板材の覚書、徳川家康の御内書などがある。また、関ヶ原の戦のあった慶長5年（1600）のものとなる資料は、上杉景勝や直江兼続から佐竹家にあてた書状や、最上義光の影響から秋田実季が由利衆と連携して小野寺義道と対立したことを示すものなど、51点がある。

江戸時代以降に比べて、中世、特に戦国期の資料は全国的にも少ない。佐竹家や常陸以来の家臣から集められた文書は、旧佐竹領の関東地方を含む東國中世史の研究資料として不可欠である。また、秋田、小野寺、戸沢氏らの旧臣から集められた文書は、戦国期の秋田を知る上で価値ある資料である。

参考文献

伊藤勝美「秋田藩家蔵文書の伝来の過程」『秋田県公文書館研究紀要』第2号 平成8年（1996）3月

伊藤勝美「秋田藩家蔵文書の成立の過程」『秋田県公文書館研究紀要』第3号 平成9年（1997）3月

秋田県公文書館「戦国時代の秋田 秋田藩家蔵文書の世界」平成22年（2010）8月

佐藤隆「秋田藩家蔵文書と戦国時代の秋田」『秋田県公文書館研究紀要』第17号 平成23年（2011）3月

